平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果　（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3092200108		
法人名	有限会社　響		
事業所名	グループホーム　ゆらり　【ユニット名：　ゆらり1　】		
所在地	和歌山県田辺市上の山1丁目19番23号		
自己評価作成日	平成29年11月17日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3092200108-00&PrefCd=30&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52　ハラダビル2F
訪問調査日	平成30年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

みんなで支えあい、ひとり一人が役割を持ち、協力し合うことで生活する意欲を引き出し、その人が生き
生きと暮らせるように努める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は畑や竹林があり、自然の中で季節感を感じられる環境にある。利用者の気持に沿ってその人らしく生きいきと暮らせるケアの実践に努めている。利用者の重度化が進んできているが、状態の変化のみにとらわれず以前の生活習慣や好みを尊重し、申し送りノートや24時間シートで情報を共有して、取り組んでいる。負荷をかけることで拘縮予防ができるようラジオ体操を毎日行うなどの工夫で、残存機能を維持できるよう職員間でも情報共有し、利用者一人ひとりがいつまでも居心地の良い生活を送れるよう取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで支えあい一人ひとりが役割を持ち協力し合う事で生きる意欲を引き出し、その人がその人らしく生き生きと暮らせるよう努めている。	利用者の気持ちになって、理念を実践に繋げられるよう取り組み、その人らしく望む暮らしができるよう支援している。開設当初に作られた理念であり、利用者の重度化に伴い現状にそぐわないところもある。	利用者の状況の変化を考慮し、現状にあった理念となるよう見直すことを期待する。
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所で畑をされている方から園芸の指導をして頂いたり、収穫の際に野菜をわけて頂いたりしております。また、利用者様の友人等で園芸をされておられる方も収穫の際には果物等を届けてくれます。	自治会に加入して会合にも加わっている。周辺に住宅は少ないが近所の畑に来る人とは収穫した野菜を分けてもらったりする関係にある。事業所は地域の子どもたちの見守り隊『きしゅう君の家』となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や電話相談等でその都度、認知症について説明させていただいております。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや、サービスの状況などを報告し、困難事例等の解決に向けたアドバイスを頂いております。	会議には町内会長や行政、医療経営コンサルタント、家族会代表などが参加し、取り組みの状況や相談内容を参考にしている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況をメールで報告し、権利擁護や成年後見制度等について助言して頂いております。	市職員と連絡を密にとり、困難な事例や利用者の権利擁護、成年後見人申し立てなど事業所からの相談に応じてもらえる関係性を築いている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権に関する研修等で、身体拘束についての理解、認識を深め、身体拘束をしないケアを提供する様に努めています。	交通量の多い道路に面しているため玄関ドアは職員の手で開閉しているが、隣のユニットに出掛けて気分転換を図るなど利用者の心に寄りそう支援で身体拘束しないケアに取り組んでいる。やむを得ず必要なときは最小限に留め家族に説明して同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	人権に関する研修等で、自分達の役割を周知し、利用者様の心と身体が守られる様に努めています。		

【評価機関】一般社団法人 和歌山県認知症支援協会

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実銭にて活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して不明な点が残らない様に十分な説明や話し合いを行い、理解、納得して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱、また面会の際やメールにて家族様と連絡を密にとり運営に反映させている。	毎月『ゆらり通信』で行事ごとに撮影した写真や事業所の取り組みを知らせている。家族とは訪問時に話しをしたりやメールで報告したりする中で意見が聞けるような関係に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や全体会議にて、個々の職員が意見を言える様に努めています。	毎日の気づきや提案を申し送りノートに記入し、全職員が必ず目を通している。月１回の全体会議以外にも週2～3回はユニットごとに話し合い、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職場の環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務や会議などで各自の力量や資質をはかり、必要な研修をうけて頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先などで他事業所の職員との交流や意見交換がもてるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で、本人様や家族様の困っていること、不安な事、今後の生活についての要望等を充分に聞けるような場を持ち、入所後安心して説明やサービス提供を行うことで、信頼関係を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話を充分に聞く機会を設け、家族の思いを受け止め、サービス提供に反映させることで、信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスを導入する際には、ご家族様に事前にお伝えするなど相互理解がもてる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者様共に共同生活を楽しむ事ができる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて連絡させて頂き、家族様と協力しあいながら利用者様を支えていく様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その人がこれまで利用されておられた店を必要とされた場合は積極的になじみの店に出向き買い物や散髪等の支援に努めている。	行きつけの散髪屋・衣料品店など、近くの図書館に出向いたりスーパーで調理器具を選んでもらうなど入居以前の生活習慣を尊重している。また馴染みの人が訪問しやすい雰囲気となるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにて、お茶の時間や洗濯物畳み等の際、利用者様同士の会話が継続する様に支援し、共同作業等を通じてお互いが支えあえる関係作りができる様に努める。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば状況をお伺いする様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を分析し、その人が望む暮らしに近づく事ができる様に支援します。	利用者の意思に任せて起床時間を自由にしている。利用者の生活歴や職歴など把握し、言葉で意思を確認しづらくなっても本人の思いを、表情や態度から意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や本人様や家族様の情報の収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やバイタルチェック表に個人、個人の状態が把握できる様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意向を尊重してQOL向上にむけた介護計画作成に努めています。	利用者の状況把握のため情報を聞き取り、日頃の関わりの中で利用者の支援がきるよう取り組んでいる。毎日24時間シートに記録し、3カ月ごとに振り返り、検討し6カ月後の計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報がスムーズに共有できるような工夫を実銭し、ケアの見直しに活かす事ができる様に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の状況に応じて、利用者様の希望に答えられる様に買い物やドライブなどの支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランチィアの参加を呼びかけ、催し物などを行い、余暇を楽しんで頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様と家族様の意向を重視し、適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医と医療連携を蜜にとっています。	協力医療機関の週2回の往診を受ける利用者が多く、急変時や対応が困難な場合は職員が付き添って受診している。訪問歯科の診察もあり、診察の様子は月1回のゆらり通信の他、メールや訪問時に家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師だけでなく、かかりつけ医や訪問看護師との情報交換も蜜にとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師、主治医、家族にも協力してもらい安心して治療に専念できる様に支援してます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実銭の中で看取り介護を経験し、今後より良い看取り介護をめざしてチームで支援していける様に取り組んでいる。	医療連携体制同意書で延命措置の意志を確認し、その都度意向を確聞いて専門医療機関に受診できるよう支援している。看取りの経験もあり、職員も研修を重ね医師と看護師と共にチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のフェイスシートや職員間の緊急連絡網を整備しております。また、利用者様の重度化に伴い職員間にて初期対応等実践力を身につける様に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の防災訓練以外に夜間の一人体制での防災訓練や、避難訓練も実施している。	利用者と一緒に年1回災害訓練をし、昼間・夜間想定の火災訓練は年2回行っている。訓練時は地域にも知らせている。災害発生時は消防署と管理者に通報が届くようになっている。1週間分の備蓄も準備している。	

【評価機関】一般社団法人 和歌山県認知症支援協会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナー研修にて、職員一人、ひとりが利用者様の尊厳について再確認しております。	衣類の選択など出来るだけ自分で決めることができるよう支援して居室を訪ねる時はドアをノックしている。全職員が利用者を尊重した呼びかけができるよう統一している。トイレは男女共用で使用している。	男女共用のトイレの個室にはドアがあり施錠できるが、羞恥心やプライバシーに配慮した工夫の検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人様の希望されるケアが実銭できる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースで過ごして頂ける様に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理髪店等、本人様の希望に添った支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて準備や片付けを手伝って頂いております。	利用者の好みや状況に配慮した食事の提供に努め、基本の副食は外部に委託して委託先の管理栄養士と話し合って献立を決めている。おやつ作り、流しそうめん、外食などの機会を設け工夫して取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に記載し、個々の体調管理を職員が共有できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方であっても必要に応じて仕上げ磨きをおこなったり、義歯の管理などもさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に対する訴えができない方でも定期的にトイレにて排泄できる様に支援しています。	排泄パターンに合わせて重度の利用者であっても失禁を減らせるようトイレ誘導し、食事や腹部マッサージで排泄を促している。排泄チェック表で確認しあい、様子からも察知して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操、また個々の能力に応じた運動をして頂き、意識して植物繊維や乳製品を摂取していただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週2回にしておりますが、汚染された際にも入浴して頂ける様に支援してます。	入浴は週2回の午前中にタイミングを図り、利用者が拒否なく入浴できるよう配慮している。浴室には移動式と固定式のシャワー椅子が2台あり、利用者の状態に応じて使い分けている。	脱衣所や浴室内は広く入浴補助具も準備し安全面に配慮されているが、入浴剤や好みのシャンプーなどを使用して入浴を楽しめる工夫を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく休息して頂ける様に室温や照明の調整をさせて頂いておりますが、日々照度に拘りのある利用者様もおられますので、状況に応じて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報については、フェイスシートと共に管理しており、各職員がいつでも確認できる様にしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や配膳等、個々の能力に応じた役割分担にてメリハリのある生活を送って頂ける様に支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望通りに、なじみのお店や自宅に出掛けられる様に支援してます。	元漁師の利用者であれば港に出掛け、以前の思い出に触れることができるよう支援している。運営推進会議で利用者の希望を取り入れて、利用者の楽しみとなるよう外出の行事を取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方については、本人様に管理していただいております。また、買い物の要望があれば、本人様と同行し、商品を選んで頂ける様に支援してます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの要望で家族様への連絡や親戚、友人等への手紙のやり取りができるように支援してます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある共有スペースになる様、季節に応じた展示物をレイアウトした空間作りになる様心がけています。	玄関前のプランターに色とりどりの花を植えており、玄関やフロアではメダカや熱帯魚が観賞できる。利用者と作成した季節の貼り絵も飾られている。「ゆらり1」のユニットには居間に広い和室があり重度化した利用者も横になることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が穏やかな気持ちになれる様、展示物備品の配置等、またゆったりと過ごして頂ける様にソファーを設置しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や大切な物はできるだけ、居室に置いて頂いております。	居室の入り口には、のれんや表札を掛け室内には仏壇や使い慣れた家具を置き、写真を飾るなど工夫して居心地の良い部屋になっている。入り口は引き戸で部屋の内側に扉が入る構造になっている。	入口の引き戸の開閉時に物が扉の後ろに有ると挟まるなど、不都合なこともあり、事故が起きないよう工夫することを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力や手伝いの必要な部分、見守りの必要な部分を把握し、その人に応じた行動を安全に行ってもらえる様に支援しています。		